



安芸の宮島「厳島神社の大鳥居」

慶應義塾大学 広島通信三田会報

みやじま

第52号

2017年12月

慶應義塾大学 広島通信三田会

目次

広島慶友会との交流会について 迫田勲	P 2
来年度（2018年）前期開催の主な行事予定 瀬戸田誠	P 3
広島慶友会活動について 会長 益田由起子	P 4
私の近況特集	P 4
新田政丸	P 6
河村 保	P 6～7
迫田 勲	P 7
檜原宏明	P 7
編集後記	P 8

広島慶友会との交流会について

会長 迫田 勲

全国各地の通信三田会は主にその地の通信卒業生（塾員）が入会し構成されています。広島県内在住の塾員数は何人か、現在その資料が未公表のため、正確な数は不明ですが、数年前の資料から推定すると、100名？くらいではないか、と推定されます。近年、塾に入学する塾生の7割方は東京、神奈川、埼玉、千葉の首都圏に集中、地方からの入学生が減少している、と報じられています。通信関係でも同様に地方塾生が減少、当然塾員になる数も減少、既会員の高齢化も伴い、会員数の減少により地方の通信三田会の運営が困難になっています。広島県内でも新塾員数がゼロから1～3名という、状況が続いています。幸、当県からこの4年間、連続して新塾員が誕生、入会されましたので、希望が見えてきました。これは慶友会の存在、人との繋がりが大きいと思っています。慶友会長を務めた脇雄吾君（平成28年経卒、ユニコン賞を受賞）が卒業と同時に入会、慶友会との窓口となり、後輩に声をかけてくれたことが、大きいと考えられます。慶友会は塾生としての友情や絆を深め、励まし合って学ぶ塾生の会ですが、卒業すれば、塾員の交流の場、三田会があります。慶友会塾生の皆さんが早く卒業し三田会に入会、又後輩を励まし、相談役になり、そして三田会の素晴らしさ、慶應で学んで良かった、と感じていただけることを願っています。当会員も同じ道を通ったもの、慶友会を応援します。2月末～3月初め頃、交流会を持ちたいと、考えています。詳細は脇幹事が慶友会と調整、纏め、ご案内します。

日時：平成30年2月～3月ごろ（日時は双方で調整）

場所：広島平和記念資料館を見学

今世界的に核や平和に関する関心が高まっており、内外から多くの方が資料館を見学、原爆の非人道性、実相に触れています。今回の交流会では、被爆地広島としてヒロシマを考える機会にしたいと思います。

その後、近くのレストランで中食会と交流会（自己紹介や体験発表等）を行う。

来年度（2018年）前期開催の主な行事予定

副会長 瀬戸田 誠

来年も下記のような行事が行われる予定です。乗り物やホテル等の手配もありますので、早めに予定をお知らせします。日程調整をし参加して慶應の雰囲気を楽しみましょう。

1、広島通信三田会総会

日時、場所等現時点未定（会員には3月ごろ案内します）

2、第24回中四国合同通信三田会

全国通信三田会四国地域連絡部大原三枝子副部长さんが下記予定で準備をされています。

日時：2018年4月21日（土）13：30～19：00

会議 13：30～15：30（受付13：00より）

講演会 15：40～16：40

※ 会議費：500円（資料代等）

懇親会：17：00～19：00（同場所宴会場にて）

※ 会費5,500円（飲み放題、記念写真付き）

場所「道後有輪荘」〒790-0843 松山市道後町2丁目12-11

電話（089）925-2013

※伊予鉄市内電车道後温泉行 南町下車徒歩5分

申し込み締め切り 3月20日※会場ホテル予約も同日

※案内状は、2018年3月1日発送予定（担当責任者は大原四国地域連絡副部长）

会場宿泊予約室は、ツインルーム 5室（定員 2名）、和室 4室（定員 4名）

※同窓会宿泊+朝食オプションで3,670円（税別）

3、春期全国幹事会

秋期全国幹事会で来春の全国幹事会が京都で開催されることが決まりました。

日 時：平成30年5月26日（土）

場 所：一燈園（幹事会・講演会）TEL075-595-3711

〒607-8025 京都市山科区四ノ宮柳山町29-13

（懇親会）京都ガーデンパレスホテル TEL075-411-0111

〒602-0912 京都市上京区烏丸通下長者町上ル龍前町605

尚、秋には下記行事が予定されています。

2018年度連合三田会大会

日時；10月14日（日）10：00～16：00

場所；日吉キャンパス 開会式は日吉会堂（塾校）予定（日吉記念館立て替え工事の為）

尚、秋期全国通信三田会は、10月13日（土）に行われますが、場所は未定です。

広島慶友会について

広島慶友会益田会長様に広島慶友会についての原稿を依頼しておりましたところ、次のような現状や課題等について寄稿していただきました。ありがとうございました。

通った道（塾員）、通らねばならない道（塾生）、この同じ道を慶友会と通信三田会が交流すれば、道は開けると思っています。今後、慶應社中の仲間として、相互の交流が続くことを願っています。（迫田）

広島慶友会長 益田由起子

私は現在、広島慶友会の会長をしております。前会長の脇様をご卒業された後を引き継ぎ、はや2年が過ぎようとしています。自分に大役が果たせるだろうかという大きな不安の中、勉学が順調に進まない私の拠り所となり、仲間同士の悩みを共有しあえる場である広島慶友会の活動は何としてでも維持しなければという思いでやらせていただいております。年3回の講師派遣、隔月の定例会を活動の中心に据え進めています。今年度は、文学部の井奥成彦教授、法学部の鈴木千佳子教授、経済学部の大西広教授をお迎えして講師派遣を行いました。慶應義塾大学の先生方のご講義を目の前で、しかも10数名で独占して聴くことができるのは、なんと幸せなことだろうと、毎回感激でいっぱいになります。また、先生方のご講義やお人柄に接するたびに、「慶應義塾大学はやっぱりすごい！」と確信するのです。

それと同時に、悩みの種もあります。それは会員数の減少です。30名いた会員が25名になり、現在も下降線をたどっている状況に歯がゆい思いです。しかし、家庭や仕事、体調等、それぞれの事情を考慮すると致し方ないのかもしれませんが。近年は、入学者もぐんと減っていると聞きますので、会員数も比例して減少するのは当然といえば当然でしょう。私が入学した頃（かなり前です！）の仲間が一人減り二人減り、いつの間にか、私が会の古顔になってしまいました。新顔の皆さんは一樣に意欲に満ち、講師派遣行事や定例会への参加も活発です。新旧メンバーの情報交換を密に行えば、勉学への安易な挫折だけは避けられると信じて、広島慶友会の活動を続けていきたいと思っています。

迫田会長様をはじめ広島通信三田会の皆様のように、卒業生になるということがいかに難しいことなのかと、今まさに痛感しているところです。それでも、せっかく取得した単位を無駄にせず、いつか皆様の仲間入りができることを夢に見て、これからも卒業を目指して頑張ってまいりたいと思っています。今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

特集「私の近況について」

広島県の会員が各地に点在、仕事や高齢化も伴い、中々一堂に集まる機会が持てない状況です。そこで、今回は会員の近況についての特集を組み、原稿を募集しましたところ、下記の会員から寄稿がありました。会員の近況や思い等を知ることにより絆が深まることを願っています。寄稿者の写真は8Pに記載。

私の近況

新田政丸（昭和33年経済学部卒）

周りの人達が私のことを元気だと言います。私は来年1月15日で92歳になります。足腰は随分弱くなりましたが、座っての諸々の作業、読み書き、又左党の方は昔と殆ど変わりなく、お陰さまで歳の割には元気でやっております。元気について私は3つのことに感謝しております。

第一は、父母が健康に強く生み育ててくれたこと、第二は肉体的に一番成長期と言われる18歳~19歳の頃、幸いか不幸か、結果として強い肉体を作り上げることができました。

昭和19年から昭和20年終戦までの間予科練として、所謂海事飛行科練習生として、鹿児島海軍航空隊で連日猛烈な訓連を受け続けて来ました。“五歩以上は駆け足” 歩いているとビントをくらいました。1日の教科の半分は体育、加えて年間を通じて競技大会の連続でした。

春は棒奪い大会、夏は2ヶ月間の水泳、9、10月は陸上競技大会、11月は相撲大会、12月は有名な1万メートル競争大会、1月~3月は柔道、剣道、銃剣術の訓練と大会等でした。

入隊前”もやし“のようなひ弱だった私の身体はこの間一変しました。復員後お陰様で大過なく今日を迎えております。第三は日常の私の生活に関係があるのかも知れません。1つは元来の映画鑑賞の趣味から始まったことですが、映画、歴史、スポーツ、政経を中心としたテレビ番組の録画、ダビング、その整理で終日作業に追われています。又昭和16年（1941年）12月8日の太平洋戦争勃発の日以来今日まで続けている新聞のスラップ切り抜き整理があります。この2つの作業が知らず知らずの間に頭の体操になっているのかも知れません。今1つは週3回湯来町内の施設、”クワハウス湯の山“のプールで約30分間歩いていることかな、と思います。このプールはラジウム含有量世界第4位の温泉でこのプールでの水遊びの継続が健康の保持増進に役立っているのかも知らません。自宅から”クワハウス湯の山“までは往復12Km、自家用車を運転して通っていますがこの運転も身体と頭の体操になっているのかも知らません。とも角年老いてからの一挙一頭足は家の中の何気ない小さな1ツ1ツの動作も含めて全て心身の状態の良否に繋がっているという感じが致します。

更に今1ツは食事だと思えます。食べ物のことは門外漢で良く分かりませんが、いいものをしっかり食べることでしょう。いいものごと馳走とは違うと思いますが、私の場合昭和の始め頃偶々近くに酪農家があって小学1年生の頃から鹿児島航空入隊時を除いて欠かさずことなく牛乳を今日まで飲み続けています。私の尊敬する”砂谷牛乳“の創始者久保政夫先生は終生牛乳こそ人類最高の食べ物唱え続けておられましたが、まさにその通りだと思えます。

長々と下らないことを書きました。歳とともに筆不精になりましたが、迫田会長よりのお便り、“会員の皆様の声や近況、消息について”に誘われてご無沙汰続きの皆様にも今この姿を思いのまま綴って書き流した次第です。いつもご案内頂く中国四国ブロック大会などの諸行事にも、参加したい気持ちで一杯なのですが、足腰がついていけないので残念ながらご無沙汰致しております。

終わりに会員皆様方お元気で新しい年をお迎えになることをお祈りして近況報告と致します。

「慶応通信教育」とは？？？（近況報告）

河村 保（1977年経済学部卒）

通信教育での慶応とは、何？

自分を含めて、真摯な学び心で、慶応の通信教育で学ばれた人達だと、自賛したい。

だが、その成果はどうだっただろうか？中には時代の先導者たらんとする、人物も排出してきている、しかし一般にはどうだろうか？「独立自尊」「気品の泉源」私自身は身につけた実力に恥ずかしさを感じている。慶応精神として、身につけられた仲間の帰属性がある。「慶応」はいまや、宗教的でもある。かつて、私は年賀状に始って、学生の広島慶友会や、通信懇親会（例の会）など慶応通信教育活動が占めていて、先輩からやり過ぎだ、と注意をして頂いたことがある。同人誌「慶応通信雑誌会」を立ち上げ、継続もしていたので、正にその気配があった。卒業の1978年から毎年発行し、夏ゼミと称して一泊二日の集いをやって来た。これも、費やしたお金と時間に見合った成果を問われると恥ずかしい。

迫田さんは、政治学で広島県知事をテーマにされて、実学にされて来られました。今は、環境問題に取り組みされる中、広島市の北の端小内地域でNPO法人を主導されています。そんな多忙な中で、通信三田会の活動に真摯に力を注いで下さっています。全国通信三田会会報に寄稿されました。慶応を卒業してからの素晴らしさを述べ続けておられます。全国幹事会にも出席されてきました。

数年前には、全国通信三田会の幹事会を広島で開催されました。出席された、山岡全国通信三田会長の挨拶の中で、かつて塾員選挙があって、当地の松田カープオーナーと全国通信三田会長の松田奎吾さんが重複候補になった時のことを話されました。私も当時は、松田奎吾会長にはお世話に成っていましたが、地元優先で、通信の大先輩の強い意向で、苦悩したことを思い出しました。選挙の結果は松田奎吾会長が当選者の中では、中ほどの票数で安堵しました。山岡会長は常に会の中心を担ってこられたから、今も心に残っているのだと驚きました。その当時は、三浦・藤原・小武家の大先輩の主導で、評議員選挙票を地元通信卒の人を中心に集めていました。広島で「オーナー」と言えば、松田耕平東洋カープオーナーのことで、誰もが慶応卒業の紳士として認知していました。四年毎の評議員選挙を主題に、懇親会を開いて来ました。カープ優勝の時に、オーナーは「嬉しいばかりではない」と仰るから、そなんことは言わないでと聞くと、「選手の年俵を跳ね上げねば成らないが、それが難しい」とのことでした。思えば、旧市民球場では観客数が余り多くなく経営は苦しい様子だった。今を思えば大変な変貌です。

昨年春、広島通信三田会では、脇君を新しく迎えることが出来た。同君はカープ球団を卒論のテーマにされたそうなので、詳しくお聞きしてみたい。

現在は、カープ女子とかピンクリボン（乳がん患者支援）など、色んな新基軸を考え実行されて、観客動員数は凄いものになった。その勢いはマツダスタジアムに留まらない

迫田会長のご尽力とご奮励に力をいただいておりますが、自分の心身が付いていけない。かつて、大先輩の主導で「例の会」と称して、会員数約13名で、毎年会誌を発行し一泊どまりで親睦会をやっていたことがありました。昭和47年創刊で平成16年33号を超えたと思います。会員は会へそれぞれに積立金を積み増して何かの時に備えていました。

時代が変わって、昔を振り返るも虚しいが、社中の協力は忘れたくない。
私は在宅酸素療法で、皆さんと元気にお会いできるのを楽しみに息苦しさを克服すべく、生きています。

私の近況

檜原宏明(平成28年文学部卒)

寒くなってきました。会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。
現在こちらでは、インターナショナルミュージック福山第二支社としての活動で、「愛してる」を歌う歌手を募集しています。YouTubeより「ならはら宏明」で検索できますので、一度ご視聴頂ければと思います。[お問い合わせは konohanagakure@gmail.com](mailto:konohanagakure@gmail.com) まで。
CDはメジャーレーベルからの全国発売となります。

本業の塾講師では、受験生の過去問指導などに従事しています。推薦入試など、早い人はそろそろ結果が出ています。

また皆様とお会いできる機会を楽しみにしています。

私の近況

迫田 勲(昭和43年法学部卒)

1、来年卒業50年に塾から入学式の招待

塾から入学式(4月2日)と懇親会に招待されました。

昭和33年の夏空の三田の丘の中庭で入学式が行われ、初めて塾歌を歌ったことが印象に残っています。来春の塾入学式会場は、長年塾生の入学式や卒後式、連合三田会等、塾の式典会場になっていた日吉記念館が立替え工事のため、横浜市のホテルで行う、と案内がありました。

2、NPO法人活動

当地区は、過疎化の進行に伴い、多くの空き家や耕作放棄地が発生、今後も見込まれることから、これを地域の宝とし活性化を図るため、今年8月当NPO法人と自治会共同で「空き家バンク」を立ち上げ、広島県の空き家バンクサイト「みんと」で、当地区の空き家情報を発信しております。これまで17名から問い合わせがあり、1世帯の移住が決まりました。東京、神奈川からも広島県や広島市の紹介で5名の見学希望があり、現地案内しました。

3、原爆伝承講習に参加

被爆地、広島に生まれ、体験した1人として、被爆者が高齢化するため、広島市が平成25年度から行っている被爆者の記憶と平和への思いを語る継ぐ事業、原爆伝承講習に参加しています。17歳の時、広島駅付近で被爆されたTさん(90歳)から原爆の非人道性や実相について直接お話を聞き、数名と一緒に講習を受けています。

3年間の講習後、伝承者の承認を得て、広島市長から認定されれば、伝承者として委嘱され、修学旅行生や外国人等に講話を行います。これを人生最後のご奉公、仕事になれば、と思っています



写真向かって前列左から檜原宏明君（私の近況寄稿）、瀬戸田誠君（副会長、行事報告寄稿）
新田政丸君（顧問、私の近況寄稿）、後列左から河村保君（監査、私の近況寄稿）、脇雄吾君
（慶友会担当幹事）、小田真理君（会計担当幹事）、迫田勲君（会長、私の近況寄稿）
（平成29年度総会、懇親会記念写真より）

編 集 後 記

大先輩の新田政丸さんから、自らの生き立ちや経験から元気さや健康の秘訣を寄稿されました。幼少時や青年時代の健康や体力づくりを通じた基礎体力の上に、毎日の食事や牛乳、運動（水中歩行）、更に1つのことを長年続けること（テレビ番組の録画、ダビングと昭和16年（1941年）12月8日の太平洋戦争勃発日以来今日まで続けている新聞の切り抜き整理、この2つが知らず知らずの間に頭の体操になっているのかも知れないと、述べておられます。健康に食事や運動などの大切さは良く云われますが、日常の暮らしと1つのことを続けることも、生活に張り合いや緊張感、希望をもたらし、この大切さを自らの経験からお教え下さいました。新聞切り抜きを昭和16年から75年も続けておられる。個人というより社会の宝です。新田先輩は地元湯来町長を長年勤められ、超多忙な中、テレビや新聞の整理を続けられておられたこと、この偉業の陰には家族、特に奥さまのご理解、ご支援が大きいと思います。その人生哲学、強靱な精神力に深い敬意を覚えます。

慶應義塾大学 広島通信三田会報 みやじま 第52号

発行 広島通信三田会 会長 迫田 勲

〒731-1171 広島市安佐北区安佐町小河内1448番地

E-mail i-sakoda@h9.dion.ne.jp

発行 平成29年12月8日